

# 水レター「びわ湖・よど川」

2010.12【vol.11】

独立行政法人 水資源機構 関西支社 発行

水レター「びわ湖・よど川」は、水資源機構全体の取り組みや関西支社管内における水資源機構の取り組みに関する情報、さらに琵琶湖・淀川水系の水源地域情報を関西管内の関係者（利水者、関係府県）の皆様にご直接配信させていただきます。

ご意見、感想及び質問等について何かありましたら遠慮なく関西支社総務部利水者サービス課の方へお寄せください。

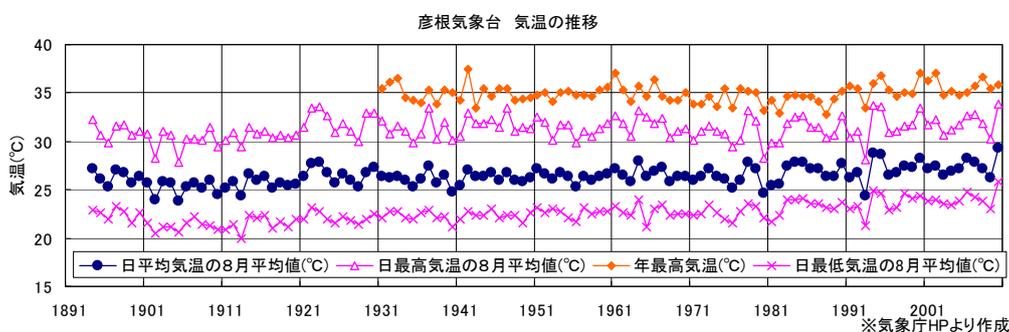
## 目 次

1. 2010年の琵琶湖の猛暑 . . . . . 1p  
琵琶湖開発総合管理所 有馬 慎一郎
2. <sup>ひとくち</sup>一庫ダムで現場視察会を開催しました . . . . . 3p  
関西支社利水者サービス課 二井 正広
3. 此花区 環境と健康フェアで「中津川管理室」をPR . . . . . 4p  
関西支社中津川管理室 脇谷 渉
4. 村野浄水場について . . . . . 5p  
大阪府水道部事業管理室調整課企画調整グループ 渡邊 昇
5. 救急救命訓練に参加して . . . . . 7p  
関西支社総務課長 布施 明宏
6. 事業仕分けに関する動向について . . . . . 8p  
関西支社利水者サービス課

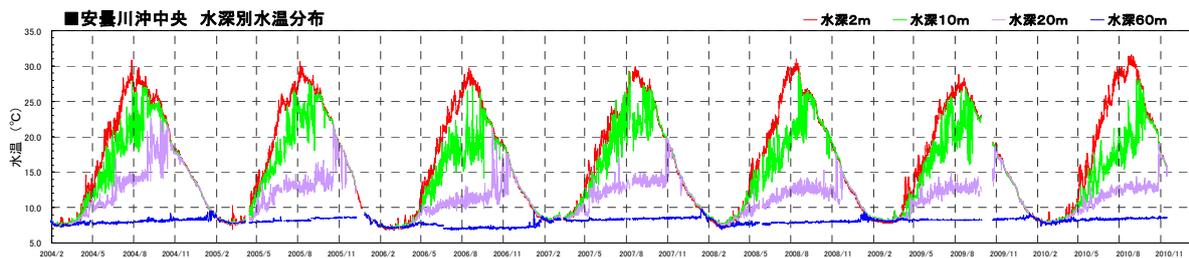
## 2010年の琵琶湖の猛暑

琵琶湖開発総合管理所 環境課長 有馬慎一郎

2010年の夏は、皆様ご承知のとおり、全国的に記録ラッシュの暑い夏となりました。琵琶湖東岸に位置する彦根気象台によると、8月は平年に比べ平均気温は「かなり高い」、降水量は「平年並」、日照時間は「多い」と発表されています。彦根気象台の観測値を見ると、1893年以來の観測の中で日最低気温の高い10傑に2010年から3日ランクインしており、年間熱帯夜数は40日と1931年の統計開始以降ダントツの1位です（これまでの1位は2002年の28日）。ちなみに、日最高気温の10傑にはランクインしていません。平均気温が観測史上最高となった2010年8月でしたが、夜間に気温が下がらない夏という特徴がみえました。



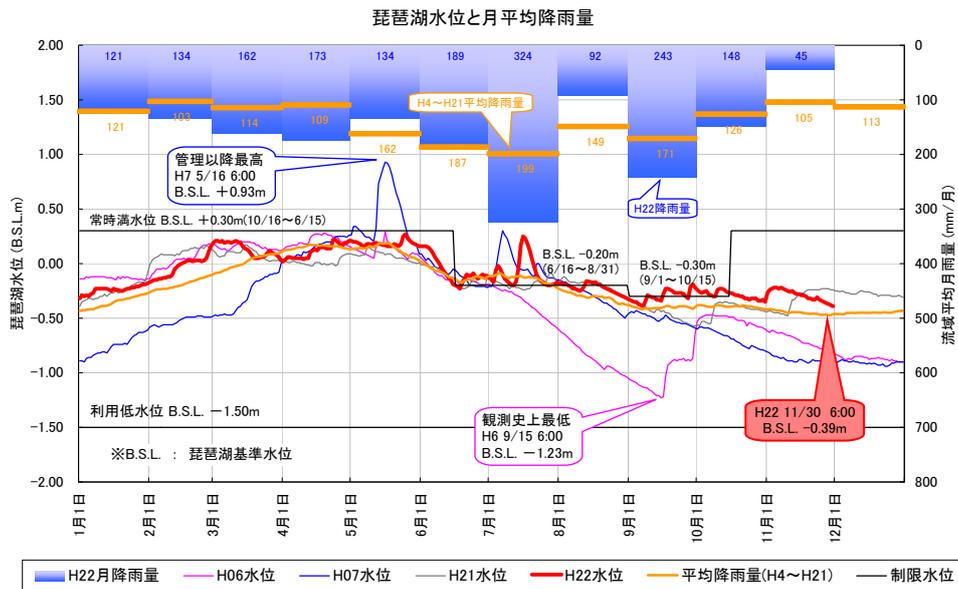
この影響もあってか、琵琶湖の水温も高く推移しました。琵琶湖開発総合管理所では、琵琶湖北湖のほぼ中央に位置する安曇川沖水質自動観測所において水質、気象等を自動観測していますが、この夏の湖面の水温は30°Cを超える観測値が続いたことがわかっています。今後の冬の大循環にどのような影響が出るか、引き続き注視していきたいと思えます。大循環とは湖面と深い層の水温が等しくなり、混ざることにより表層から深い層に酸素が供給されることをいい、琵琶湖の深呼吸とも言われています。近年は地球温暖化とも関連し、琵琶湖の大きな課題として注目されています。



一方、降雨状況は、3月、4月、7月、9月に例年に比べ多く、10月末時点で既に平均年降水量（約1,670mm）を超え、既に約1,700mmとなっております。

5月下旬には前線による降雨のため琵琶湖水位が高い時期ということもあり、注意態勢に入り琵琶湖水位の上昇状況を監視しつつ施設操作に備えましたが、流域平均降水量は約60mmにとどまり、結果的にB.S.L.+29cmまでの水位上昇で収まりました。琵琶湖の水位が高い春から夏にかけては、雨量にかかわらず常に注意を払い、適切な施設操作への準備を心がけているところです。特に、2010年は夏場も制限水位に近

い水位を推移したこともあり、まとまった降雨時には、休日、夜間を問わず、職員が琵琶湖総管事務所において各観測値を監視し、いざというときに備えました。



琵琶湖開発総合管理所で管理しているビオトープでは、フナ類の産卵が確認されています。フナ類は、4月頃から夏にかけて降雨時の琵琶湖水位上昇により水田などの内陸側浅瀬に遡上・産卵し、孵化した仔魚は浅瀬で成長すると言われ琵琶湖を代表する在来魚です。草津市の近江大橋たもとに位置する新浜ビオトープでは、今年は効果的な降雨により琵琶湖水位と連動してビオトープ水域が拡大し、産卵遡上が促され、7月の調査時に孵化した仔魚を多く確認しました。今後も、よりよい環境となるよう手入れをする予定であり、引き続き状況を見ながら順応的に対応していく予定です。



干し上げ時の一斉調査（在来魚は琵琶湖へ放流、外来種は駆除）

記録的な夏の気象による琵琶湖への影響は、すぐにわかるもの、数年後にわかるものなど様々あると考えられます。継続的に環境を注目していくことが、琵琶湖の変化を捉えるためには重要と考えています。今後も、琵琶湖の恩恵を引き継いでいくために、取り組んでいきたいと考えております。

## 一庫ダムで現場視察・意見交換会を開催しました

関西支社利水者サービス課 二井正広

さる11月26日（金）、利水者及び関係機関の皆様を対象とした現場視察・意見交換会を紅葉の美しい一庫ダム管理所で開催し、7機関11名の参加がありました。

この現場視察会は水資源機構発足を機会に利水者及び関係府県の皆様実際に現場を見て頂くことによって、水資源機構の事業や業務上の課題等をご理解頂くことを目的に平成15年度から実施しているもので、今年度2回目となります。

当日はJR川西池田駅に集合し、マイクロバスにてダム下流の河川状況を見ながら管理所に到着しました。

まず関西支社谷総務部長の挨拶のあと、一庫ダム青井所長からパワーポイントを使って、「一庫ダム」の管理と効果・環境保全の取り組み・地域との連携等の説明を行いました。

その後、ダム堤体内に入り監査廊・常用洪水吐ゲート・利水放流ゲートを見学し、参加者から、「ダムの内部に初めてに入った。」「ゲートの大きさに驚いた。」との声があがっていました。

現場視察後、説明ホールで意見交換会を開催しました。参加者から水機構に対して、「川上ダム及び丹生ダム利水者撤退に係る一次精算の対応」や「利益剰余金の利水者還元について」、「管理コストの縮減」、「一庫ダムの弾力的運用について」等の意見・要望がありました。

また、機構から水資源機構における最近の状況として「事業仕分け」「ダム検証について」「施設管理規程の変更について」の情報提供を行いました。

今回の現場視察・意見交換会では、利水者及び関係機関の皆様の現場への理解を深めていただくとともに、各機関が抱えている水機構への要望・意見等を聞くことができた貴重な場となりました。今後とも継続してこの現場視察会を実施していきたいと思えます。

最後に参加していただいた利水者及び関係機関の方々に御礼申し上げます。



関西支社総務部長挨拶



ダム堤体監査廊での説明状況



## 此花区 環境と健康フェアで「中津川管理室」をPR

関西支社 中津川管理室 脇谷 渉

11月13日(土)に中津川管理室のある大阪市此花区にて「第20回此花区 環境と健康フェア」が開催され、水資源機構の紹介コーナーを設置し、来場者の方々に中津川管理室の仕事内容をPRしてきました。

当日は天気に恵まれ、大阪の主要交通機関である自転車でたくさんの方がフェアに参加されていました。当フェアでは、環境と健康に関する出展が多くなされ牛乳パックのトイレットペーパー交換、血管年齢測定などは大人気！みなさん環境と健康にかなり気を配っているようです。下の写真は出展の一例です。



開会セレモニーの様子



各出展は大にぎわい

中津川管理室は、淀川下流左岸に建設した高見機場より取水し、下流の正蓮寺川や六軒家川へ導水して河川浄化機能を維持する等の「正蓮寺川利水事業」を行っています。当フェアではパネル展示とビデオ上映にて事業内容をPRしました。説明をして地元の方の話を聞いていると「大阪の水はきれいになった」という方がほとんど。昔に比べると川や海の匂いや透明度などが格段に良くなったと感想を持たれているようです。正蓮寺川利水事業が効果を発揮しているのだなぁと実感できた経験でした。

今後も「正蓮寺川利水事業」を理解してもらえようPRに努めていきたいと思えます。



パンフレット配布



パネルにて説明

## 村野浄水場について

大阪府水道部事業管理室調整課企画調整グループ 渡邊 昇

### ○大阪府営水道の概要

大阪府域には、淀川以外に水量の豊かな水道水源がなく、府内のほとんどの市町村では必要な水量を確保することが困難です。そのため、大阪府営水道は「水の卸問屋（水道用水供給事業）」として昭和26年2月から「くらしの水」を市町村を通じて各家庭にお届けしています。現在は大阪府民に供給されている水道水の約7割（大阪市を除く）が府営水道の水であり、大阪市を除く府内のすべての市町村に年間約5億4千万 $m^3$ を供給しています。

府営水道はすべての水を淀川から取水していますが、その内の多くは琵琶湖開発により生み出された水に依存しており、その他にも高山ダム、青蓮寺ダム、日吉ダムなどの水源施設により生み出された水を利用しています。

### ○村野浄水場について

#### 【村野浄水場の概要】

村野浄水場は大阪府枚方市に位置し、昭和38年7月に通水、現在では府営水道の約8割の水を製造しており、1,797,000  $m^3$ /日の給水能力を有する浄水場です。淀川沿いにある磯島取水場で取水した水は、約4kmの導水管を通じて村野浄水場に送られ、浄水処理をした上で各市町村の水道へ送水しています。



また、村野浄水場には、従来平面的に配置されていた浄水施設を立体的にした階層系浄水施設があり、浄水処理の一翼を担っています。

#### 【高度浄水処理の導入】

府営水道の主な水源である琵琶湖では、昭和40年代以降毎年のようにかび臭が発生し、淀川に流入していたため、浄水場では粉末活性炭処理による対応を行なっていましたが、効果は十分ではありませんでした。そのため、かび臭を取り除くとともに、発がん性のあるトリハロメタンの原因となる物質などにも対応するため、さまざまな実験と検討を繰り返した結果、高度浄水処理を導入し、平成10年7月からは村野浄水場をはじめとする府営水道のすべての浄水場から安全でよりおいしい水である「高度浄水処理水」を供給しています。

村野浄水場では、従来から行なっている沈澱・ろ過といった処理に加え、高度浄水処理として、オゾンの強い酸化力がかび臭等の有機物を酸化分解するオ

ゾン処理と、トリハロメタンの原因となる物質等を吸着除去する粒状活性炭処理を行っています。その結果、高度浄水処理導入前と比較して、かび臭は完全に除去され、トリハロメタンも約3分の1と大幅に減少するとともに、その他の農薬や微量有機化学物質の除去にも効果があり、浄水の安定性がより向上しました。

#### 【環境対策への取り組み】

年間約2億1千万kWhの電力を使用する村野浄水場では、地球環境にやさしい浄水場を目指しています。その一環として沈澱池内の藻の発生を抑えるために設置した蓋に太陽光パネルを併せて設置するとともに、階層系浄水施設には落差を利用した水位差発電設備を導入し、これらの発生電力（平成21年度実績で約175万kWh）は浄水場の運用電力の一部として利用しています。



また、浄水処理過程で発生する汚泥を脱水・乾燥したケーキの約半量は、「あくあふれん土」の名称で園芸用土の材料として民間企業に販売を行なうとともに、校庭芝生化における芝生育成土の材料などとして公共間での利用を促進しています。

#### 【研修生・見学者の受け入れ】

村野浄水場においては、従来より小学生から専門的な技術者まで幅広い方々の施設見学を受け入れています。平成21年度の実績では約1万人の方が見学に訪れ、近年は国外からの視察も増えており、府営水道や日本の水道技術についての認識を深めていただいています。

本年11月には、国際貢献の一環としてタイ首都圏水道公社の職員10名を研修員として受け入れ、約3週間にわたり村野浄水場をはじめとする府営水道の各施設などにおいて、浄水・送水分野に関する技術研修を実施しました。

また、「水道業務体験研修」として、平成18年度より水資源機構の職員の受け入れを行っており、本年度は11月15日からの1週間にわたり、6名の職員に村野浄水場等において実際に水道に関わる業務を体験していただき、水機構・利水者といった垣根を越えた広い視野を習得していただきました。

村野浄水場では皆様の見学をお待ちしております。下記URLをご参照のうえ、お気軽にお問い合わせ下さい。

大阪府HP内 浄水場施設見学のご案内

<http://www.pref.osaka.jp/suido/kengaku/index.html>

府営水道は、平成23年4月に大阪広域水道企業団に事業を承継すべく、必要な手続きを進めています。企業団が今後もより安全な水を安定して府民の皆様にお届けするとともに、事業の更なる効率化を図れるよう、府と市町村が一丸となって企業団の円滑な事業開始に向け、取り組んでいます。

## 救急救命訓練に参加して

関西支社 総務課長 布施 明宏

12月6日に関西支社の入居しているセイワビルにおいて、入居以来初めて合同の救急救命訓練が実施されました。

はじめにビデオによる応急処置に関する説明の後、大阪中央消防署職員の皆様による、実際に人形を使った心肺蘇生法の指導があり、AEDを使いながら一人一人が実践しました。



指導は丁寧で、それぞれの出席者に対して、注意すべき点や力の加え方などを教わり、質問にもわかりやすく答えていただきました。

救急救命訓練は、思ったよりも体力が必要で大変でしたが、今まで間違っていた覚えていた事柄が発見でき、正しい知識を身につけることができました。また、一度でも訓練をしておけば緊急時の対応への心構えができますし、このような状況に遭遇しても、積極的にお手伝いができる自信ができました。

関西支社では、今後も救急救命訓練等に取り組み、万が一の時には人命救助のお手伝いができるよう職員の教育を行って参りたいと考えています。



## 事業仕分けに関する動向について

関西支社 利水者サービス課

「事業仕分け」につきましてはご承知のとおり、昨年の政権交代以降、国からの歳出を減らす、無駄撲滅、いわゆる「埋蔵金」の歳入などを目的として行われています。国からの交付金、補助金などを受ける水資源機構においても、事業仕分け第2弾の仕分け（独法仕分け）を平成22年4月に受け、更に第3弾の仕分け（特別会計）を平成22年10月に受けました。その結果、4月の事業仕分けでは「利害調整など本来行うべき業務のみ機構が行い、それ以外は他に任せる（機構の業務としない）。契約については大至急見直し」の評価結果を受け、「利害調整など本来行うべき業務」と「それ以外の業務」について4主務省（厚生労働、農林水産、経済産業、国土交通省）と機構において自己点検を行い、その内容について関係利水者の方々からご意見をお伺いいたしました。それを踏まえ水機構としての考えを取りまとめているところです。

また、10月の事業仕分けでは、水資源機構交付金を含む治水勘定仕分けにおいて、「利益剰余金の国庫返納を早急に検討」の評価を受けています。

さらに平成22年11月には行政刷新会議より、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」が示され、12月7日には基本方針が閣議決定されました。この基本方針によれば、「民間委託の更なる拡大、安全や利害調整に直結しない業務についてはコストを検証しつつ、可能な部分について民間委託を行う。また、民間委託以外の形で他の主体に任せる業務について、利水者の意見を踏まえ、検討する。」とされているところです。

事業仕分けに関しては、アンケート、役員面談などお手数をおかけいたしました。また、水機構に対して貴重な意見を賜りありがとうございました。御礼を申し上げます。寄せられた意見については今後の水機構の業務に反映させていただきますので何卒よろしく願いいたします。

### －これまでの動き－

4月28日：事業仕分け「ダム・用水路等の管理業務（水資源機構）」

WGの評価結果「利害調整など本来行うべき業務のみ機構が行い、それ以外は他に任せる（機構の業務としない）。契約については大至急見直し」

10月28日：治水勘定仕分け（水資源開発交付金含む）

WGの評価結果「利益剰余金の国庫返納を早急に検討」

11月26日：行政刷新会議「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」決定

12月 7日：「独立行政法人の事務・事業見直しの基本方針」閣議決定

## 編集後記

先日、11月21日（日）第29回川西一庫ダム周遊マラソン（ハーフ）に出場いたしました。ゲストに川西市出身の古田敦也氏（元ヤクルト監督）を招いての大会です。レース当日は秋晴れの清々しい1日で、ランナーの力走を讃えるかのようにダム貯水池周辺の紅葉も美しいものでした。今年の夏以降、家内のダイエットのためのジョギングに付き合い、毎週走るうちに、何かの大会に出ようと言うことになり、ぎりぎり申し込んだものでしたが、結果は走り込み不足もあり、15キロ地点でスタミナ切れ、老化を実感し、久しぶりのハーフを走ったという疲労感のゴールでした。これに懲りず、また走りたいと思います。

来年の一庫ダムマラソンは30周年を迎え、記念すべき大会となります。都市に近く、美しい紅葉が魅力の一庫ダムマラソンに是非参加してみたいと思います。

関西支社利水者サービス課 今井 敬三

水レター「びわ湖・よど川」に対して、ご要望、ご意見等がございましたら、  
下記アドレスまでご連絡下さい。（耳寄りな情報もお待ちしています。）

<mailto:w-kansai@msg.biglobe.ne.jp>